

季刊 まち・コミ

2012年 冬号

● インフォメーション ● <http://park15.wakwak.com/~m-comi/>



今月の注目記事 P1 特定非営利活動法人(NPO 法人)まち・コミュニケーション設立のごあいさつ



特定非営利活動法人(NPO 法人) まち・コミュニケーション 設立のごあいさつ

この度“阪神・淡路大震災まち支援グループ まち・コミュニケーション”は、2012年12月、活動の場と機会をさらに拡げるため法人格を取得し“特定非営利活動法人 まち・コミュニケーション”となりました。

皆様には、1996年4月の設立以来16年強、物心両面におけるご支援を頂き、住民が主体となって地域を復興させることを目指し、まちづくり支援活動を継続することができました。

今後も、初心忘れず、これまでの活動を継続しながら、「まちづくり」と「学びの場づくり」「交流の場づくり」を行い、主体的に行動できる人材を育成するための“育ちの場”を提供することで、豊かな地域社会の構築に寄与していきたいと思っております。

今後とも、ご指導・ご支援よろしく願いいたします。

2012年12月20日

特定非営利活動法人まち・コミュニケーション

代表理事 宮定 章

設立までの経緯

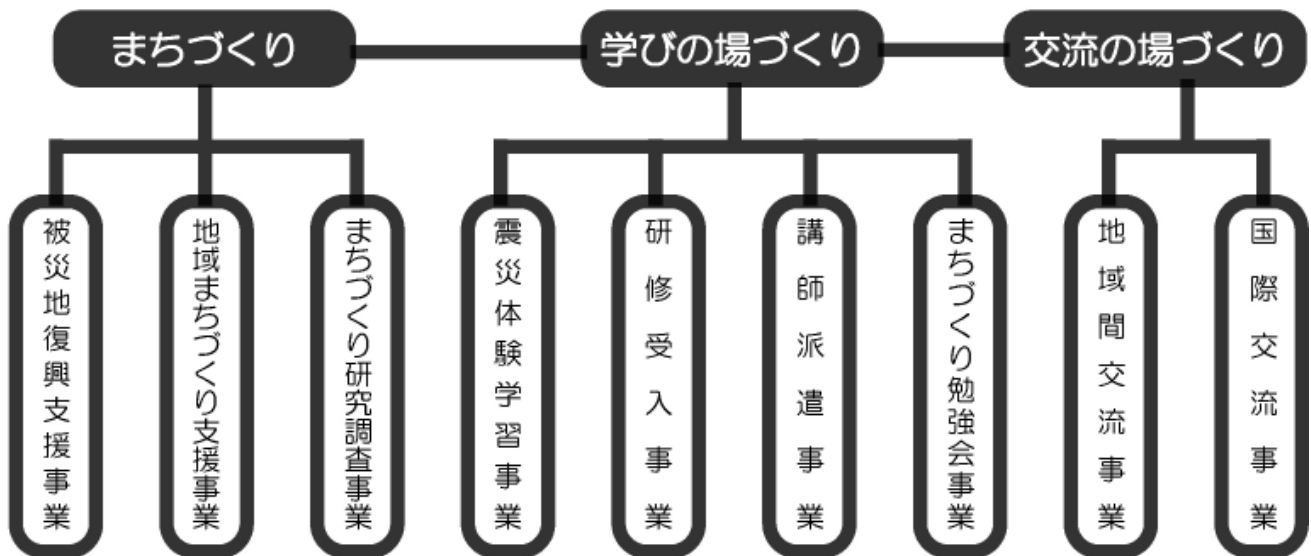
平成8年4月 阪神・淡路大震災まち支援グループ まち・コミュニケーション発足

平成24年5月 運営委員会にて法人化の意思確認

平成24年8月 特定非営利活動法人 まち・コミュニケーション 設立総会開催

平成24年12月20日 特定非営利活動法人 まち・コミュニケーション 設立

まち・コミュニケーションの 3つの活動テーマ



【被災地復興支援事業】 東日本大震災被災地を支援しています。地元の方が復興まちづくりに安心して取り組めるよう地域の調査を行い、関係者と共に地域づくりに関わります。

【地域まちづくり支援事業】 これまでの地域づくりの活動経験から、平常時のまちづくりを支援します。人々の地域への思いを、交流の中から伺い、実現に向けて応援します。

【まちづくり研究調査事業】 自然科学系の大学のゼミや授業、論文レポートの執筆者、関東都市学会事務局などをサポートします。

【震災体験学習事業】 小・中・高校生を対象に、命の大切さ、人と人が支え合う意味を語り部との交流の中で学ぶ機会をつくれます。

【研修受入事業】 大学生以上を対象に、震災体験と教訓、復興まちづくり、ボランティアなどをテーマに研修します。

【講師派遣事業】 講演会やシンポジウムに講師やパネリストとして出演し、これまでの経験を元に震災復興、まちづくり支援などをお話しします。

【まちづくり勉強会事業】 まちづくりや震災をテーマに勉強会を開催します。

【地域間交流事業】 兵庫県豊岡市出石町にある鳥居やすらぎ市民農園で畑を耕しながら、農園の活性化はもとより、都市（神戸からの参加者）と農村の交流を行います。

【国際交流事業】 2011年3月に開館した一滴水記念館（日本の古民家を台湾へ移築）を通じた日台交流と、神戸とアジアをつなぐ取り組みを行います。

活動に関わる4つの方法

参加者募集中です

ボランティアとして活動する

各プロジェクトや事務局の活動は、ボランティアのみなさまに支えていただいています。ご希望の活動に、できる範囲でお願いしています。まずは事務局までご相談ください。

例えば「東日本大震災の被災地に行くときは連絡してほしい」「出石市民農園での農作業に一度参加してみたい」「日曜日に炊き出しをすることがあれば参加できます」など、ご連絡をいただいております。

事務局からの呼びかけで参加する

イベントや勉強会、交流ツアーの開催時など、ブログやEメールで参加者を募ります。また、市民農園で採れた有機野菜の購入など協力をお願いしています。

ブログは「まち・コミブログ」<http://machicomi.blog42.fc2.com/>です。Eメールでの情報をご希望の方は、事務局 m-comi@bj.wakwak.com までお知らせください。

会員になる、もしくは寄付で活動を支える

まち・コミュニケーションの活動を、資金面で支えていただいています。認定NPO法人の申請を目指しているため、特に賛助会員と3,000円以上のご寄付をお願いしております。（詳しくは本誌6ページの「会員募集中！」をご覧ください）

見守る

ホームページやブログで、活動の様子をご覧いただくことができます。また、Eメールでも不定期（2カ月に1回程度）で情報をお届けしています。

ご希望の方は m-comi@bj.wakwak.com までご連絡ください。

役員

代表理事 宮定 章

副代表理事 野崎 隆一（株式会社遊空間工房代表取締役）

理事 井上 赫朗（株式会社まちづくり研究所代表取締役）

浦野 正樹（早稲田大学文学学術院教授）

遠藤 勝裕（独立行政法人日本学生支援機構理事長）

大矢根 淳（専修大学人間科学部教授）

田中 貢（近畿大学建築学部教授）

田中 保三（株式会社兵庫商会取締役会長）

戸田 真由美

監事 今田 忠（市民社会研究所所長）

設立趣旨

「阪神・淡路大震災まち支援グループ まち・コミュニケーション」は、平成8年4月設立。阪神・淡路大震災により約8割焼失という大きな被害を受け、土地区画整理事業地区に指定された神戸市長田区御蔵通5・6丁目において、コミュニティの再建を支援してきました。

効率や利便を優先する現代において人任せの風潮が拡大した結果、地域のつながりを減少させたと考え、復興における被災住民の主体性が重要であると感じたことから、住民が主体的にまちづくりに関わることで、住民同士の交流を図りながら愛着が持てるまちをつくることを目標にしました。まちづくり協議会による復興計画策定段階や生活再建では住民の意見が計画に反映するよう支援し、ハード面では工事を業者まかせにせず素人でも関われる工程には参加できる機会をつくり、イベントなどのソフト面では一人でも多くの方が気軽に関われるよう工夫し参加を呼びかけました。まちづくりの各場面で外部からのボランティアが大勢関わり、あらゆる立場の人を巻き込みながらまちづくりをしてきたことが高く評価されました。

阪神・淡路大震災では、主体性を育むことの大事さを経験しました。その経験は、平成11年に台湾で起こった集集大地震や、平成16年に西日本を中心に襲った台風23号の被災地である兵庫県豊岡市出石町鳥居地区などにも広がり、交流が続いています。各地区のパートナーと住民主体の大切さを共有し、地域づくりや人材づくりに生かしています。また、東日本大震災被災地でも、住民が主体となって地域を復興させることを目指し、まちづくり支援を行っています。

支援と称した活動に参加する中でボランティア自身も、地域の人々や共に活動する仲間との出会いから社会や自然との関係を学び、日常で起こっているごく普通のことにも気付き、成長してきました。社会で通用するスキルを身につけ、仕事で生かしている人もいます。活動に関わった多くの人々にとって、貴重な体験ができる場であったと自負しています。

活動の場と機会をさらに広げていくため、「まち・コミュニケーション」として特定非営利活動法人に申請することにしました。今後はこれまでの活動を継続しながら「まちづくり」と「学びの場づくり」「交流の場づくり」を行い、主体的に行動できる人材を育成するための「育ちの場」を提供することで、豊かな地域社会の構築に寄与していきます。

補足：NPO法人とは・・・

(「NPO法人設立・運営の手引(平成24年度版)」兵庫県・神戸市より引用)

特定非営利活動促進法(以下、「NPO法」といいます。)は、福祉、環境、まちづくりなど様々な分野の社会貢献活動を行う団体に対し、法人格を付与することによって、市民が行う自由な社会貢献活動の健全な発展を促進することを目的としています。

法人格を取得することにより、契約などの法律行為の主体となることができ、法人名義で資産の保有等の財産管理ができるようになりますが、一方で、法人としての社会的責任や法律上の義務を負うこととなります。

さらに、自らに関する情報をできる限り公開することを通して、市民の信頼を得、市民によって育てられるべきであるとの考えがNPO法の大きな特徴です。法人の信用は、行政の管理や監督によって担保されるのではなく、活動実績や情報公開等によって、法人自らが築いていくことを目的としています。

まち・コミ news



1月17日近辺のお知らせ

1月13日(日) こうべあいウォーク2013 開催

9時30分から10時の間にJR鷹取駅南東にある大国公園を出発し、まち・コミがゴール。まち・コミスタッフは、ゴールにて参加のみなさまをお待ちしております。スタート地点での募金(千円)は、NPO法人しみん基金・KOB Eを通じて市民活動へ助成されます。チラシはこちらです <http://www.stylebuilt.co.jp/kikin/blog/iwalk2013NEW.pdf> お問い合わせは、電話078-230-8511(神戸まちづくり研究所)まで。

1月17日(木) 早朝からお待ちしております

阪神・淡路大震災の発生から18年を迎えます。

まち・コミスタッフ一同、午前5時46分を慰霊の気持ちで御蔵北公園(まち・コミュニケーション事務所のすぐ南)にて迎えます。その後、6時ごろからは事務所内にて、来訪者のみなさまをお待ちしております。震災を語り、まち・コミに関わるみなさまの交流の場にもなればと考えております。ご都合がよろしければ、ぜひお越し下さいませ。

上記以外でも、お近くにお越しの際はぜひ事務所へお寄りくださいませ。(不在にしていることがございますので、事前にご一報ください)

大地のつぶやき

阪神・淡路大震災18年を前に

十八年が目前に迫ってきた。震災記念日には、南は九州天草から北は秋田、仙台から多くの僧侶が集まって慰霊法要をして下さる。神戸に泊まり、未明の早朝より慰霊モニュメントを囲んで読経されるその行為に気高さや尊さを感じる。それもさも自然と自分の務の如くで誠にありがたい。夕方の五時四十六分は東北の丹波、但馬から十数名の僧侶が来られ百二十八名の故人名を朗々と読み上げられ流れるように儀式が執り行われる。本当に頭が下がる素晴らしい方々だ。十八年間絶えることなく継続される神戸の慰霊法要の中でも特異な存在と誇っている。震災当初は幽霊が出ると言われ、住民の方に連れられてその場所に行き、長い読経をしてもらった。また家族が亡くなりがレキの中に花を供えられた場所にも請い願われて読経されたことも度々あった。

この十八年間、日本は言うに及ばず世界各国で自然災害が発生し続けている。都市化と人口増が脆弱な構造のまちを生み、恐ろしいほどの犠牲者を出し続けている。我が国でも東日本大震災は津波被害は勿論、二次被害としての原発被害がある。それに加えて風評被害にまで苦しめられている。こんなことになるなんて誰も想像しなかつただろう。帰れる目途すら立たないなんて...

産業が発達し都市化が進み、交通網が四通八達し、蜘蛛の巣の様に走る地下鉄や高速道路、それに地下街、高層ビルや旧態依然の老朽木造家屋密集地域、埋め立てによる液状化といった予想を越す事象が広範囲に起こり得る。南海トラフでマグニチュード9クラスの巨大地震なら最大で三十二・三万人の死者が出るという。そのうち津波で二十三万人、建物被害で八・二万人、火災で一万人。これを最大限の防災対策等を見込んだら津波で四・六万人、建物被害で一・五万人、火災で三百人の計六・一万人に減らすことが出来るという。被害を限りなく減らすために我々一人ひとりが日々防災・減災意識への努力を怠りなく積み重ね続けることが肝要だ。

株式会社兵庫商会 田中保三

まち・コミ活動報告 任意団体の活動報告です

9/1 ~ 12/19

- 【東北復興支援】 8/19-9/13、9/22-10/12、10/20-29、11/5-21、11/27-31、12/8-12、12/13-18
- 9/15-18【国際交流】台湾訪問
- 10/6【視察研修】山形大学
- 10/16【講師派遣】豊中まちづくりフォーラム
- 10/17【震災学習】愛知県春日井高
- 10/18【視察研修】コープこうべ
- 10/18【震災学習】和光高等学校
- 10/23【震災学習】暁秀中学校
- 10/31【視察研修】神戸大学都市安全研究センター(中国・韓国)
- 10/31【講師派遣】豊中勉強会
- 11/1【講師派遣】大阪市立大学都市計画研究室
- 11/2【視察研修】川崎市職員
- 11/3【地域支援】佐用町民家測量
- 11/4・23【出石市民農園】たまねぎ畝作りと移植
- 11/7【震災学習】加古川市両荘中
- 11/7・8【調査協力】石巻専修大学
- 11/13【震災学習】長崎大教育学部附属中
- 12/1【講師派遣】関西大学
- 12/2-7【被災地支援】インドネシアアチェ視察・交流
- 12/4【震災学習】宮城県石巻高
- 12/13【震災学習】東京都立南葛飾高
- 12/15【講師派遣】レスキューストックヤード

ご支援、ありがとうございます。【順不同・敬称略】

9/1 ~ 12/19

賛助会員(新規・継続)

栗原昭頭(広島) 舟橋國男(大阪) 直田春夫(大阪) 谷川一成(兵庫) 北野泰成(兵庫) 橋本涉一(兵庫) 高森香都子(兵庫)
 日本精機株式会社(大阪) 吉川俊雄(山口) 佐藤麗司朗(東京) 早坂文明(宮城) 西條遊児(兵庫) 岡本誠(兵庫)
 大久保裕晴(大阪) 芦田英機(大阪) 北後明彦(兵庫) 高井秀樹(兵庫) 高谷克人(東京) 陳浩明(大阪) 桂光子(兵庫)
 鈴木ケイ子(新潟) 株式会社美交工業(大阪) 高井徹(埼玉) 田嶋民子(兵庫) 池田清(兵庫) 角谷陽子(大阪)
 森山正和(大阪) 高橋敏文(埼玉) 斉藤賢次(兵庫) 松本誠(兵庫) 近藤悦生(兵庫) 中村實(東京) 辻野芳郎(兵庫)
 樽本憲昭(兵庫) 入口方(兵庫) 山下憲子(兵庫) 山岡義典(東京) 島田誠(兵庫)

寄付 品田茂(東京) 早坂文明(宮城) 山手斉(東京) 角谷陽子(大阪) 森山正和(大阪) 澤田修一郎(京都)

協力 社団法人シャンティ国際ボランティア会(東京都) 株式会社兵庫商会(兵庫県神戸市) 味六亭(宮城県石巻市)

会員募集中!

認定NPO法人申請を目指し、より多くの方に賛助会費もしくは3,000円以上のご寄付をお願いしています。認定NPO法人になると、寄付者は税制上の優遇措置を受けることができますようになります。(正会員と購読会員は寄付者に含まれません)

さらに活発な活動を行うため、会員を募集し、資金面でのご支援をいただいています。

また、会員は1年更新とさせていただきます。現在会員の方も時期がきましたら、更新をお願いいたします。(期限は「季刊まち・コミ」郵送時の封筒の、宛名ラベルに記載していますので、ご確認ください。)

会員種別

賛助会員

まち・コミュニケーションの事業を、会員として賛助して下さる方

年会費：5,000円(学生3,000円) 総会議決権：なし

正会員

まち・コミュニケーションの目的に賛同し、ご入会くださる方

年会費：10,000円 総会議決権：あり

入会申込書のご記入をお願いしております。

購読会員

まち・コミュニケーション発行の「季刊まち・コミ」購読希望の方

年会費：3,000円 総会議決権：なし

編集後記 NPO法人となり、「月刊まち・コミ」は「季刊まち・コミ」に生まれ変わって、今後も活動をお伝えします。よろしくお願いたします。(戸)

郵便振替口座番号

00950-3-42788

口座名称

「まち・コミュニケーション事務局」

2012年12月20日発行

編集 / 発行

特定非営利活動法人まち・コミュニケーション

事務所 〒653-0014

兵庫県神戸市長田区御蔵通5-211-4-101(みくら5)

TEL 078-578-1100 / FAX 078-576-7961

東北出張所 〒986-0859

宮城県石巻市大街道西1-14-101 味六亭 相澤様方

e-mail m-comi@bj.wakwak.com

URL http://park15.wakwak.com/~m-comi/